



【特集】アンケート結果を活用しよう!

中京大学の FDとは

FDとは、授業内容・方法や広く大学の教育に係る活動を改善し向上させるための組織的な取り組み (Faculty Development) のことを意味します。中京大学では、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して学生・教員・職員(三者)がベストを尽くすもの(For Doing our best)ととらえています。

FDに関する 人材育成の 目標・方針

「FDの目的・理念」に掲げる「より良い授業」を展開するために、授業の計画、実施、評価及び改善に関わる能力を身につけ、本学の特徴を活かした教育を行い、教育における自らの役割を自覚し、職責の遂行に全力を尽くすことができる人材の育成を目指します。

CONTENTS

- 教育推進センター長挨拶 ②
- 2021年度第1回中京大学FDセミナー ④
- 教育推進センター組織について ②
- 2020年度自己成長・評価アンケート結果 ⑤
- 教育推進センター2021年度重点目標 ②
- 授業改善のためのアンケート結果 ⑥・⑦
- 2021年度FDワークショップ ③
- 書籍のご紹介 ⑧

教育推進センター長挨拶

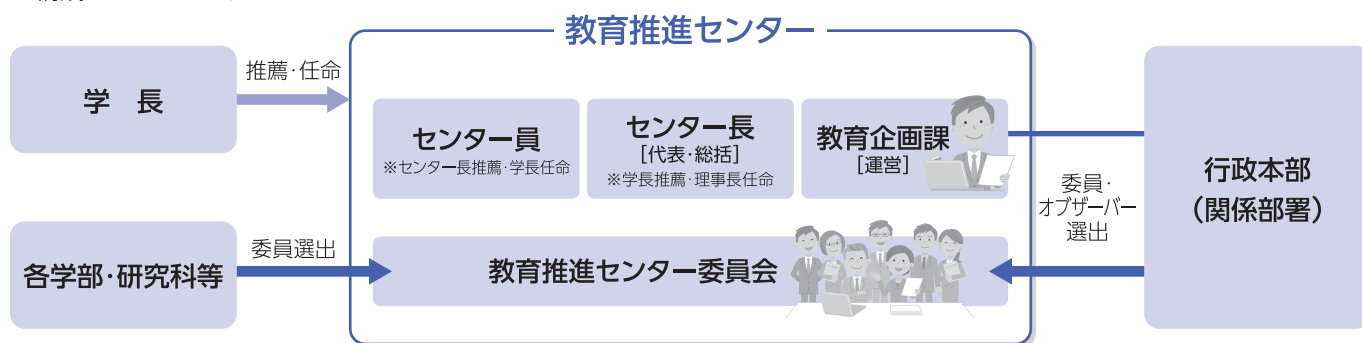
教育推進センター長 目加田 慶人

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、教育機関が用意する学びが変わってきています。中京大学においても、講義や実習など様々な授業形態に応じて、対面とオンラインのベストミックスを指向し、教員間の情報共有を図ることでその授業方法も変わり続けています。社会情勢の変化の影響は受けつつも、みなさんが「自ら考え行動することのできるしなやかな知識人、自立した社会人」として活躍できるよう、さまざまな授業改革に取り組んでいます。教育推進センターは、教育の質向上のために、教育方法の振り返りやICT技術の利用促進など、教育をより良い方向にアップデートするための方策を検討・実施する全学的な組織です。例えば、公開が進んでいる科目ルーブリックは、各授業で段階的な目標を示すことで履修者の達成度の自己理解を促進しています。また、授業改善のためのアンケートは、みなさんから寄せられたコメントを基にその授業がより有益になるような授業方法の再考に使われています。

新しい教育の実現のためにできることはまだ沢山あるはずですよ。みなさんも教職員とともにFD活動をおこない、より良い学びの環境をつくるために協力ください。

教育推進センター組織について

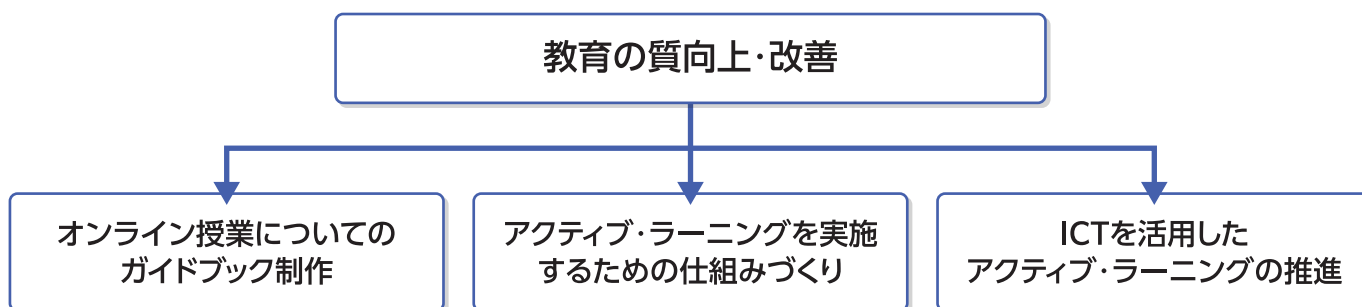
教育推進センターは、センター長とセンター員、センターの運営を行う教育企画課で構成されています。また、センターに設置されている教育推進センター委員会は、各学部・研究科等や行政本部の関係部署から選出された委員・オブザーバーによって構成されています。



教育推進センターの2021年度重点目標 (指針)

教育推進センターでは、センターのミッションに基づき、年度ごとに重点目標を設定し、活動をしています。今年度は、教育の質向上・改善のため、以下の3つを目標としています。

また、センターのミッションなどは教育推進センターHPにて公表をしています。



2021年度FDワークショップ

本学では、2017年から、本学に新しく着任した教員の方を対象に、個々の教育力の向上に加え、大学の授業を深く考えることで、大学教員としての自覚を高める契機とすることを目的にFDワークショップを実施しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で不開催となった2020年度の対象者も含めて実施をしました。

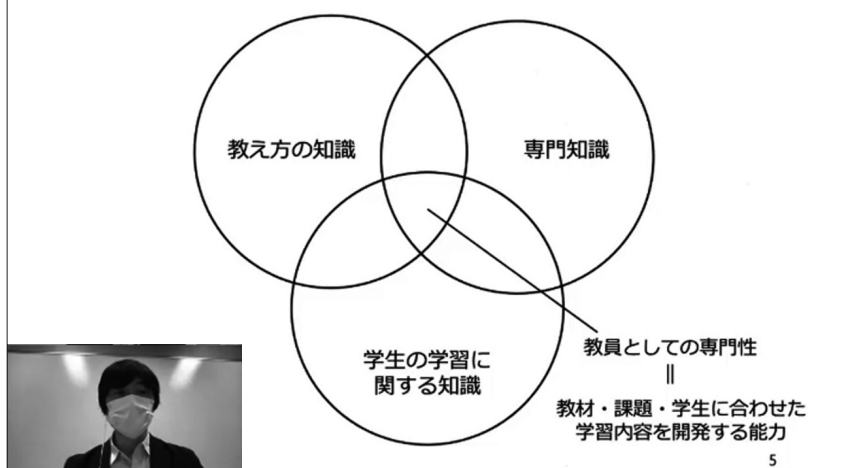
- テーマ **新任教員のための授業準備講座**
- 講師 **中島 英博 立命館大学教育開発推進機構 教授**
- 開催日 **2021年4月3日**
- 参加人数 **94名**
- 開催方式 **オンライン(リアルタイム)**

立命館大学の中島英博准教授を講師としてお迎えし、本学の新任専任教育職員を対象としたFDワークショップを開催しました。

ワークショップでは、大学教員としての経験が8年未満の本学新任教員向けに「学習目標設定」「評価課題作成」「教授法の活用」の3つの講義がグループワークや投票を交えながら行われました。

開催後に行われた参加者アンケートでは、「ワークショップは、有意義な(参考になる)ものでしたか。」との質問に対し、約8割もの肯定的な回答を得ることができました。

授業担当者に必要な知識 (吉崎 1988)



参加者の声

30年間、医師に教育方法を教える部門で勤務した後、昨年着任した私にとって、何を今更と思いながら参加したのが本音でした。しかし、医学教育とは異なる部分があったり、忘れかけていた内容を思い出すことができたりして、ことのほか有意義な時間を過ごすことができました。

参加方法はオンラインでしたが、Zoomのブレイクアウトルームを利用して途中で3回も参加者同士でディスカッションする機会がありました。1回目、職場の同僚とはいえ初対面の先生方と話をするのは億劫でしたが、3回目になるとお互い打ち解けて世間話に花が咲きました。

講義内容は、スライドに出典が付記された信頼性の高い情報を提供して下さったので、既存知識を最新の情報へと更新することができました。「1.学習目標の設定」では「バックワードデザインの原則」がすべての授業に当てはまることを再認識させられたため、来年度はシラバスの大幅な修正が必要になりそうです。

(スポーツ科学部 教授 野田智洋先生)

2021年度第1回中京大学FDセミナー

新型コロナウイルス感染症の影響により本学でも導入したオンライン授業について、今後も継続される可能性があります。

オンライン授業では、レポート課題における剽窃の防止や、真に学生の思考を促す方法など、通常の対面授業にも共通する課題が顕著に表れました。

そのため、学生が自ら頭を使ってレポートを書きたくなる工夫について考えることから始め、そもそもレポート課題をどのように設計すべきか、何をどのように評価すべきか、というレポート課題を軸にオンライン型、対面型双方に係る授業設計について参加者と共に考えていくことを目的にセミナーを開催しました。

● テーマ……「レポート課題を軸に考える授業設計 —剽窃を防ぎ、学生を思考にいざなうレポート課題の設定—」

● 講師……成瀬 尚志 大阪成蹊大学経営学部 准教授

● 開催日……2021年9月14日

● 参加人数……124名

● 開催方式……オンライン(リアルタイム)

大阪成蹊大学経営学部の成瀬尚志准教授を講師としてお迎えし、2021年度第1回FDセミナーを開催しました。

セミナーでは、事前に行ったアンケートで募った悩みや取組を踏まえながらレポート課題の工夫が紹介されました。また、掲示板ツールによる質疑応答やグループディスカッションなど、オンラインながら活発なコミュニケーションが行われました。

セミナー後の参加者アンケート

では、「セミナーに参加してよかったと思いますか」という質問に対し、9割以上が「思う」「やや思う」と回答。また、「今回の講演で、レポート課題を軸に考える授業設計についての理解が深まったと思いますか。」という質問に対しても9割以上が「思う」「やや思う」と回答がなされ、好評を博しました。



参加者の声(一部抜粋)

- レポート課題の論題の立て方、評価の観点などについて再考する良い機会になりました。
- レポート課題の可能性と様々な手法について認識を新たにすることができた。
- 他学部の先生方のレポートに関する考え方を聞くことができる機会はこれまでありませんでしたので、有意義な時間を過ごせました。
- レポート課題について、学部を超えて議論したり、具体的な実践例(対話形式や問いと考えを書かせる形式)を知る機会はこれまでなかった。そのため、今回は新たな知見や視点を獲得することができる貴重な研修会になった。秋学期の授業で、さっそく取り入れてみようと思う。

2020年度自己成長・評価アンケート結果

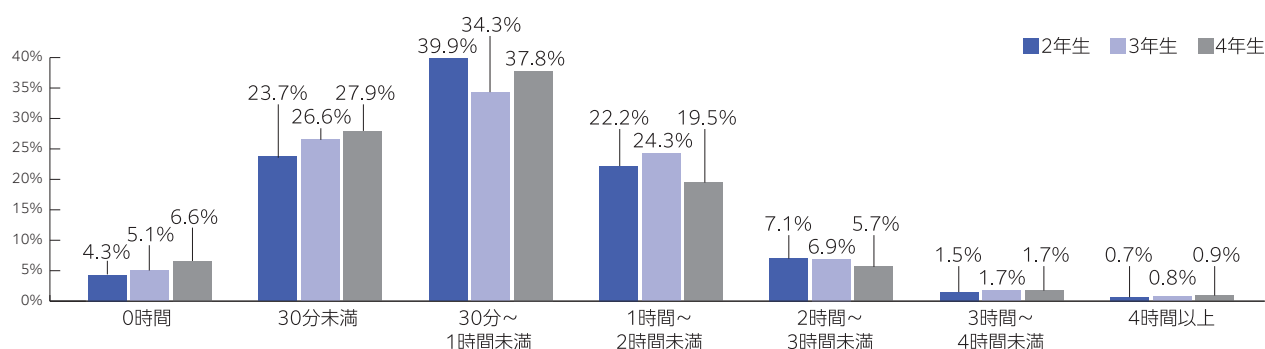
自己成長評価アンケートとは、中京大学に入学してからの学習を皆さん自身が振り返り、どれだけ成長したかを確認・評価してもらうことを目的として、継続的に実施しているアンケートです。皆さん自身の回答はWeb上に保存されるため、集計後に公開される全体結果と比較したり、前年度の回答と比較して成長を確認するなど役立てることができます。

2020年度に行われた、アンケートの結果のうち、学習に関する設問の結果は下記のとおりです。この結果を見ると、2年生から4年生にかけ、主体的に学習する意識が高くなっていることがわかります。授業を受けるだけでなく、主体的に学習を行うことでより内容が身に付きます。

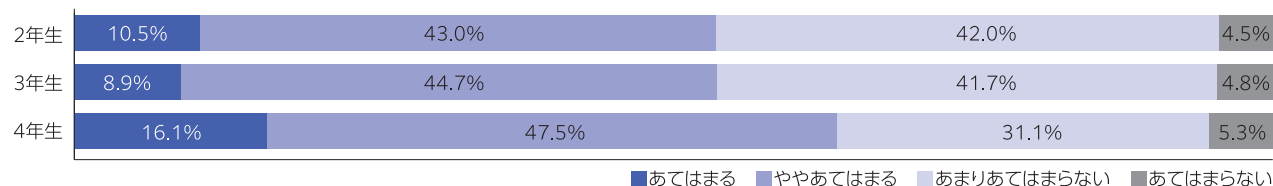
なお、設問や集計結果については中京大学公式HPのほか、ALBOでも配信しています。

【今年度の実施期間】2021年12月6日～2022年1月31日(予定)

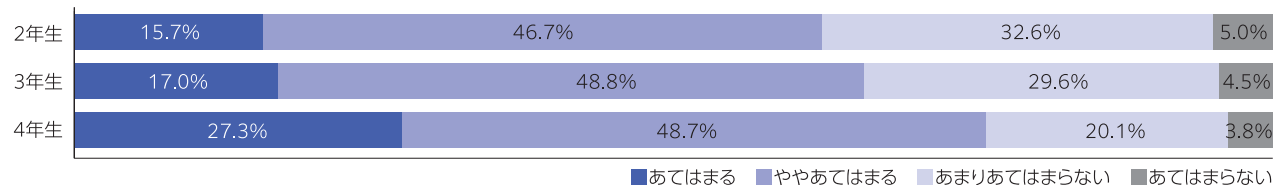
● 設問3-2 正課の授業の予習や復習の時間は、1日当たり平均するとどのくらいですか。



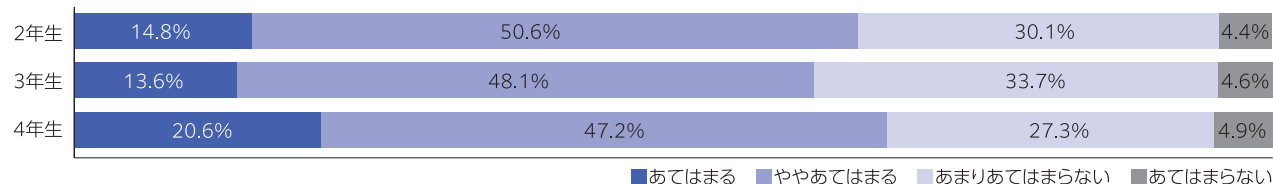
● 設問5-2 授業で学んだ内容について、深く掘り下げて学習している。



● 設問5-3 書く、話す、発表することで、自分の考えを伝えている。



● 設問5-4 自分の学習について振り返っている。



学習のコツ!

学びには、①知識を蓄える ②知識を使う ③振り返る という、基本的な3つのステップがあります。このステップをこなすには、事前事後学習が欠かせません。

例えば、①授業でしっかりと知識を身に付ける ②その知識を使い、自分の言葉でレポート作成や発表をする ③レポート等へのフィードバックを確認し、足りない部分を理解するなどが典型的です。レポート等がない場合は、知識を使って友達と話してみるのもいいでしょう。

大学での学びは、学生のみなさんが主体となって初めて力になっていきます。そのためにも、このアンケートを通じて今の自分に足りない力や学習への向き合い方を改めて確認し、今後の学修に活用してください。

特集

アンケート結果を活用しよう!!

授業改善のためのアンケート結果

授業改善のためのアンケートは、履修者の授業に対する満足度や意見を集約し、改善に役立てることを目的としています。科目担当者はアンケート結果を確認の上省察コメントを作成し、その省察を学部内の担当者が点検しています。なお、各授業のアンケート結果と省察コメントは、10月上旬からMaNaBoで公開しているほか、全体の結果は教育推進センターHPでも公開しています。

実施対象科目	2021年度春学期開講科目の内 737科目
実施期間	2021年7月1日(木)～7月27日(火)
設問数	全学共通質問項目12問(選択式10問、記述式2問)

【あなた自身に関する質問】

(1)この授業を履修した理由は何か。(複数回答可) (2)この授業1回分(90分間)の受講に対して、事前事後学習(宿題、課題含む)を合計すると、平均してどのくらいの時間をかけたか。(3)自分は、この授業の「学修到達目標」を達成した。(学修到達目標とは、シラバスに記載してあるものをさします) (4)自分は、この授業を通して、新しい知識、技術、能力を得た。(5)自分は、この授業に満足した。

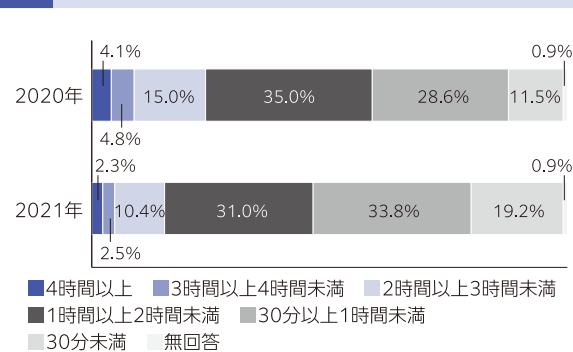
【授業内容・方法等に関する質問】

(6)教科書、板書、配付資料、視聴覚教材、実演などを通じて、授業の教育効果をあげる工夫がされていた。(7)授業は、概ねシラバスに沿って進められていた。(8)授業は、受講者の理解度を確認しながら進められていた。(9)事前事後学習(宿題、課題含む)に関して、担当教員から指示がなされていた。(10)教員から受講者へのフィードバック(質問への対応、課題へのコメントなど)がなされていた。(11)この授業で良いと思った点について記述してください(オンライン授業含む)。(12)この授業で改善した方がよいと思った点について記述してください(オンライン授業含む)。

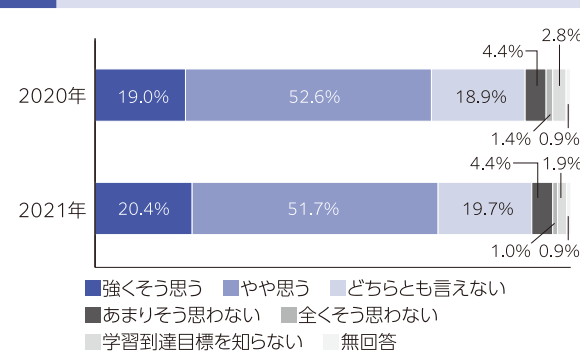
【結果について】

回答率は60.5%で昨年度春学期から約3.6ポイント向上しました。設問ごとの結果としては、事前事後学習時間が2020年度より低下したことは課題ですが、学習到達目標の達成度や満足度は向上しています。また、設問全体を通して肯定的な回答が多くを占め、各設問の平均点も向上していることから、アンケート結果を基に各教員が授業改善に取り組んでいることが伺えます。

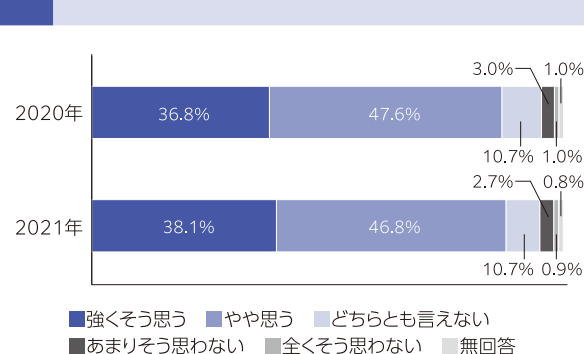
2 この授業1回分(90分間)の受講に対して、事前事後学習(宿題、課題を含む)を合計すると、平均してどのくらいの時間をかけたか



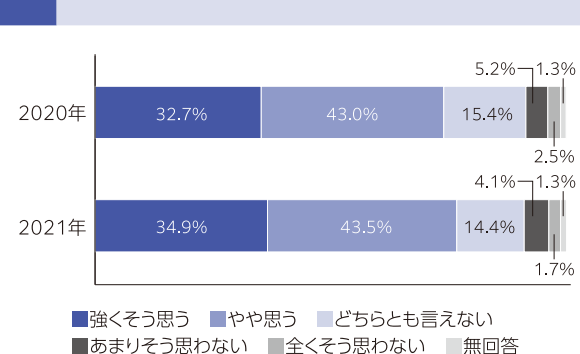
3 自分は、この授業の「学修到達目標」を達成した。(学修到達目標とは、シラバスに記載してあるものをさします)



4 自分は、この授業を通して、新しい知識、技術、能力を得た。



5 自分は、この授業に満足した。

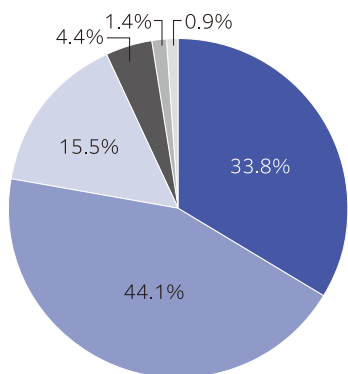


特集

アンケート結果を活用しよう!

6

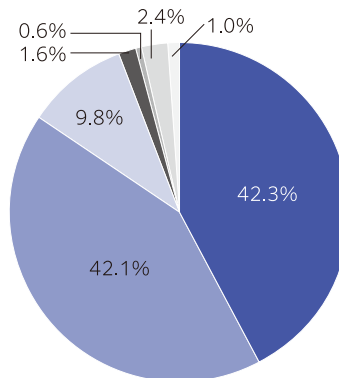
教科書、板書、配付資料、視聴覚教材、実演などを通じて、授業の教育効果をあげる工夫がされていた。



■ 強く思う ■ やや思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

7

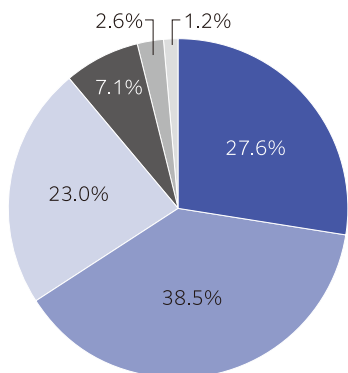
授業は、概ねシラバスに沿って進められていた。



■ 強く思う ■ やや思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ シラバスを読んでいない ■ 無回答

8

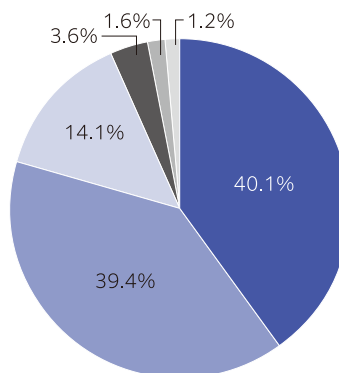
授業は、受講者の理解度を確認しながら進められていた。



■ 強く思う ■ やや思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

9

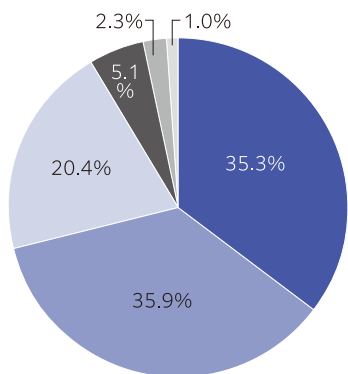
事前事後学習(宿題、課題含む)に関して、担当教員から指示がなされていた。



■ 強く思う ■ やや思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

10

教員から受講者へのフィードバック(質問への対応、課題へのコメントなど)がなされていた。



■ 強く思う ■ やや思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

授業改善のためのアンケートは、授業を改善する目的以外にも、学生の皆さんが回答を通じて授業への向き合い方を振り返ったり、前年度の結果を履修の参考にするなど活用していただけます。

教育推進センターHPでは、アンケートの設問や、アンケートに関するQ&Aなども紹介していますので、秋学期のアンケートに回答する前に、一度ご覧になることをおすすめします。

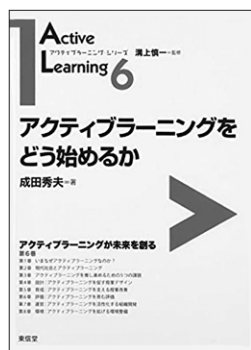


書籍のご紹介

アクティブ・ラーニングなどについて書かれた書籍は数多くあります。いろいろな場面や専攻に対応した書籍などもありますので、授業方法に迷った時は一度さがしてみてください。

なお、以下でご紹介する書籍は本学の図書館にも置いてありますので、興味のある方は一度訪れてみてください。また、名古屋・豊田どちらのキャンパスからでも取り寄せることができます。

成田秀夫『アクティブラーニングをどう始めるか』（東信堂、2016）



「いまなぜアクティブラーニングなのか?」という問いから始まり、アクティブラーニングの課題、授業デザインや授業改善についてだけでなく、評価や組織開発、環境整備についてまでを網羅しており、教員、職員を問わず、FD初心者にぴったりの内容が詰まった一冊です。

アクティブラーニング・シリーズという、全7冊あるシリーズの一冊なので、気になった方はほかのシリーズも読んでみてください。理論から実践まで、アクティブラーニングの課題に寄り添ってくれます。

L.Bニルソン『学生を自己調整学習者に育てる』（北大路書房、2017）



「アクティブラーニングのその先へ」というテーマを掲げ、「メタ学習スキル」をキーワードに、深くて持続的な学びについて授業デザインから課題、試験の方法までを自己調整という観点から記しており、教員や職員だけでなく、学生の方にとっても学び方を考えることのできる一冊です。

全12章57項目からなる具体的な内容の数々には余すことなく学習のヒントがちりばめられおり、気になる箇所を拾い読みすることもできるため、ふとした時に読むこともできます。

秋田喜代美、藤江康彦『授業研究と学習過程』（放送大学教育振興会、2010）



「人はどのように学ぶのか」という観点について、行動主義など複数の心理学的な理論から説明するとともに、授業そのものについて、学習過程と学習成果の質や、教室談話の特徴など、様々なアプローチで解説をしています。学生の学習のために、教員がどうアプローチしていくのかを考えることができます。

教員の方だけでなく、これから教員を目指す方にとっても、授業というものの考え方を見直すきっかけになります。

発行：中京大学 教育推進センター 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2
Email: fd-office@ml.chukyo-u.ac.jp URL: <https://www.chukyo-u.ac.jp/information/fd/>